

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
身体作業療法評価学演習		必修	2	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
浅野 克俊 他	C313	k.asano		月・火曜日 12:10~13:00	
授業の目的・概要	評価が作業療法を実践する上で重要である。本演習は評価学で学んだ知識を使い、身体障害を持ち、生活に障害を抱える対象者に対して最低限の評価ができるようになることが目的である。授業は原則面接授業で行う。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	本演習で扱う評価法は作業療法実践に最低限必要なものである。習熟には繰り返しの練習が必要であり、講義・演習時間だけでは不足しているため能動的に学習すること。また、臨床では講義・演習で扱ったもの以外も求められるため積極的に学習してほしい。				
教科書	①標準作業療法学 作業療法評価学 第3版/著:岩崎テル子 他/編:岩崎テル子 他/医学書院 ②新・徒手筋力検査法 原著第10版/著:Helen J.Hislop 他/訳:津山直一 他/協同医書 ③ROM 測定法 :代償運動のとらえ方と制動法の理解と実践/著:斎藤慶一郎/メジカルビュー 【3冊指定】				
参考書	機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版 監:青木隆明 出版社:メジカルビュー 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版 監:青木隆明 出版社:メジカルビュー				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	身体障害領域の作業療法の検査測定の方法を理解し、実践できる。			OT (1) ~ (3)	
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション ICF と身体評価技能を理解する。	面接授業	教科書①P13~21 を精読		1
2	ICF と身体評価技能を理解する。	面接授業	教科書①P13~21 を精読		1
3	神経筋骨格と運動に関連する機能の評価 ROM-t (肩・肘・前腕・手) を学習する。	面接授業 (実技)	教科書③の関連部分の基本的知識を予習しておくこと		1
4	神経筋骨格と運動に関連する機能の評価 ROM-t (肩・肘・前腕・手) を実践する。	面接授業 (実技)	教科書③の関連部分の基本的知識を予習しておくこと		2
5	神経筋骨格と運動に関連する機能の評価 ROM-t (股・膝・足) を学習する。	面接授業 (実技)	教科書③の関連部分の基本的知識を予習しておくこと		1
6	神経筋骨格と運動に関連する機能の評価 ROM-t (股・膝・足) を実践する。	面接授業 (実技)	教科書③の関連部分の基本的知識を予習しておくこと		2
7	ROM-t の小テスト I	小テスト	ROM-t を習熟する		2
8	ROM-t の小テスト II	小テスト	ROM-t を習熟する		2
9	神経筋骨格と運動に関連する機能の評価 MMT (肩・肘・前腕・手) を学習する。	面接授業 (実技)	教科書②の関連部分の基本的知識を予習しておくこと		1
10	神経筋骨格と運動に関連する機能の評価 MMT (肩・肘・前腕・手) を実践する。	面接授業 (実技)	教科書②の関連部分の基本的知識を予習しておくこと		2
11	神経筋骨格と運動に関連する機能の評価 MMT (股・膝・足) を学習する。	面接授業 (実技)	教科書②の関連部分の基本的知識を予習しておくこと		1
12	神経筋骨格と運動に関連する機能の評価 MMT (股・膝・足) を学習する。	面接授業 (実技)	教科書②の関連部分の基本的知識を予習しておくこと		2
13	MMT の小テスト I	小テスト	MMT を習熟する		2
14	MMT の小テスト II	小テスト	MMT を習熟する		2

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

15	バイタルサインの評価Ⅰ	面接授業 (実技)	教科書①P53～63 を精読	
16	バイタルサインの評価Ⅱ	面接授業 (実技)	教科書①の関連部分の技術を習熟すること	1
17	神経筋骨格と運動に関連する機能の評価 片麻痺機能検査・筋緊張検査・協調性検査・反射検査を実践する。	面接授業 (実技)	教科書①P130～166 を精読	1
18	神経筋骨格と運動に関連する機能の評価 片麻痺機能検査・筋緊張検査・協調性検査・反射検査を実践する。	面接授業 (実技)	教科書①の関連部分の技術を習熟すること	1
19	感覚機能と痛みの評価 感覚検査、痛みの評価を学習する。	面接授業 (実技)	教科書①P114～128 を精読	1
20	感覚機能と痛みの評価 感覚検査、痛みの評価を学習する。	面接授業 (実技)	教科書①の関連部分の技術を習熟すること	1
21	運動と移動の評価 姿勢・基本動作(寝返り・起き上がり・座位)の評価を学習する。	面接授業 (実技)	配布資料を復習すること	1
22	運動と移動の評価 姿勢・基本動作(寝返り・起き上がり・座位)の評価を学習する。	面接授業 (実技)	配布資料を復習すること	2
23	運動と移動の評価 姿勢・基本動作(立ち上がり・立位・歩行)の評価を学習する。	面接授業 (実技)	配布資料を復習すること	1
24	運動と移動の評価 姿勢・基本動作(立ち上がり・立位・歩行)の評価を学習する。	面接授業 (実技)	配布資料を復習すること	2
25	運動と移動の評価 上肢機能の評価を学習する。	面接授業 (実技)	教科書①P204～211 を精読	1
26	運動と移動の評価 上肢機能の評価を学習する。	面接授業 (実技)	教科書①の関連部分の技術を習熟すること	1
27	脳画像と機能評価(パートⅠ)	面接授業 (実技)	配布資料を復習すること	1
28	脳画像と機能評価(パートⅡ)	面接授業 (実技)	配布資料を復習すること	1
29	OSCEⅠ	小テスト	今まで学習した内容を習熟する。	2
30	OSCEⅡ	小テスト	今まで学習した内容を習熟する。	2
試	定期試験			

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	0
総合力指標	知識・技術力	80	0	0	0	0	80
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0

評価のポイント

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①	実技の小テストおよび OSCE (60%) と期末試験(40%)を含めて評価する。	授業内および授業外で個別に実施する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
レポート	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

		評価のポイント		評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標				
成果発表	①				
	②				
	③				
	④				
	⑤				
	⑥				
ポートフォリオ	①				
	②				
	③				
	④				
	⑤				
	⑥				
その他	①				
	②				
	③				
	④				
	⑤				
	⑥				
備 考					
他 担 当 教 員	岡 猛				
教員の実務経験	本科目の担当教員は 全員 5 年以上の臨床業務経験がある。				
実践的授業の内容	テキストと併せて臨床における治療で得た知見に基づき作業療法に必要な基本的実技・知識を教授する。				
そ の 他	<p>授業は面接授業で実施する。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めません。</p> <p>実技と小テストは実習着・靴を着用して受講してください（着用がない場合は受講を認めない）。</p> <p>大学構内での授業受講に際して、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は授業の参加を認めない。</p> <p>受講態度に問題がある学生は退室をしてもらう。</p>				